

# CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 13 No.14 2011年7月31日号

編集:[editor@cnar.jp](mailto:editor@cnar.jp) 広告:[pr@cnar.jp](mailto:pr@cnar.jp) 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2011 CNA Report Japan. All rights reserved.

## 製品・サービス動向-国内

パナソニック、HD映像コミュニケーションユニット2モデル、バウンダリーマイクロホン、同製品専用のネットワーク接続サービスを発表



左奥：KX-VC300、手前 KX-VC600(パナソニック資料)

パナソニック システムネットワークス株式会社(東京都目黒区)は、HD映像コミュニケーションユニットの2モデルとバウンダリーマイクロホン、また同製品専用のネットワーク接続サービスを新たに発表した。(6月2日)

今回発表された2モデル「KX-VC600」と「KX-VC300」は、すでに販売しているおもに大企業向けの「KX-VC500」(2009年10月発売)の性能や機能を踏襲しながら、システムLSIや高密度実装技術また部品や機構の見直しによって小型軽量化と低コスト化も実現し、中小規模の企業でも導入しやすいモデルにした。

「KX-VC600とKX-VC300は、KX-VC500に比べ容量は、従来比の1/2と小型軽量化。A4用紙サイズとほぼ同じ面積の省スペース設計を実現した。」(パナソニック システムネットワークス)

HD映像コミュニケーションユニットは、同社のプラズマ液晶テレビ「VIERA(ビエラ)」やブルーレイ/DVDレコーダー「DIGA(ディーガ)」で培ってきたH.264映像技術をベースとし

たシステムLSI(デジタル家電プラットフォームUniphierユニフィエ)を搭載している他、IPネットワーク上で安定した接続を実現する「AV-QoS」、また音声品質については、独自のエコーキャンセラー方式(独立成分分析、ICA)を搭載している。

## KX-VCシリーズ用リモコン

(パナソニック 資料)



「ベストエフォート(帯域保証がない)型の公衆インターネットにおいても、テレビ会議は今後普通になってくるだろう。そういったインターネットにおいても、高品質な映像と音声を保ちながら、安定した低遅延の接続を実現することがこれからのHD映像コミュニケーションには必須と考える。そこで当社としては、今まで当社にて培ってきたAV技術とネットワーク技術を結集し、低コストながらも高品質な映像と音声を実現した製品

を開発した。」(パナソニック システムネットワークス)

HD映像コミュニケーションユニットは、H.264/AVC、H.264 HP(ハイプロファイル)に対応。解像度については、KX-VC600は1080iに、またKX-VC300は、720pに対応している。音声コーデックについては、G.722とMPEG-4 AAC-LDに対応している。

通信方式には、SIPに対応している。NGN回線での通信も可能だ。通信帯域は、最大9Mbpsまで対応する。暗号方式は、AES方式と独自方式に対応。

QoSについては、先述のAV-QoSを採用。自動レート制御、前方誤り訂正(FEC)、自動再送要求(ARQ)、デコーダエラー隠蔽、遅延制御の各技術を組み合わせることで、パ

ケット通信における安定した通信が実現されている。「10%程度のパケットエラーが発生しても、安定した通信できる。」(パナソニック システムネットワークス)

多地点機能については、KX-VC600 が自端末を含めた 4 端末の多地点接続機能に標準対応している。KX-VC300 は、オプション(アクティベーションキーカード)となっている。

「HD映像コミュニケーションユニットは、SIP に対応した主要なメーカーのテレビ会議製品との接続が可能だ。他社製で構成されたテレビ会議環境への増設や、MCU を使った多地点通信もスムーズに行える。今後は、1080p HD にも対応する予定だ。」(パナソニック システムネットワークス)

映像と音声の入出力については、本体に HDMI 端子を搭載しているため、市販の HDMI 対応のデジタルビデオカメラ

や液晶ディスプレイに対応している。一方コンテツ共有(PC 画面)については、VGA 端子を使用する。またサブビデオカメラ(HDMI2 端子の映像のみ)も使用可能だ。



左上：デジタルマイクロホン (KX-VCA001)

左下：今回発売のアナログマイクロホン (KX-VCA002)

「すでにオフィスにある HDMI ビデオカメラや液晶ディスプレイ、あるいは、VGA 端子付きのパソコンを簡単に利用できる点が特徴だ。またリモコンも VIERA リモコンと同じ様に直感的で簡単な操作性が好評だ。」(パナソニック システムネットワークス)

HD映像コミュニケーションユニットの別売品には、「アクティベーションキーカード(4 地点接続用、フル HD 対応用)」、

「カメラセキュリティアダプター」、「デジタルマイクロホン」があり、今回それらに追加して、「アナログマイクロホン (KX-VCA002)」も提供開始する。

「パナソニックグループが有する音声処理技術や量産化技術を活用することで、今回低コストの専用バウンダリーマイクロホン(アナログ)を新規に開発した。」(パナソニック システムネットワークス)

なお、KX-VC600 と KX-VC300 の外形寸法(幅 x 奥行き x 高さ)は、約 320mm x 約 230mm x 約 60mm。また、質量は、2kg となっている。

上記新製品に加え、パナソニック システムネットワークスでは、あらたに HD 映像コミュニケーションシステム専用接続サービス「つながるねっとサービス」を開始する。

「煩雑な設定などをすることなく、HD映像コミュニケーションユニットを箱から出して、誰もが簡単にテレビ会議を利用できる環境を提供することが目的だ。」(パナソニック システムネットワークス)

このつながるねっとサービスは、公衆インターネットを使用するクラウド型サービス。固定 IP アドレスが不要で、その上複雑なネットワーク設定も行う必要はない。同社から割り当てられる、電話番号に似た 7 桁の専用番号(ユーザが選択することも可能)をダイヤルすることでテレビ会議接続が行える。相手側が同じサービスに入っていれば、社外とのテレビ会議接続も行える。

このサービスは、市販のルータ(推奨機種あり)の NAT 越えを行い、端末の暗号機能で通信を暗号化してテレビ会議を行う。

また暗号鍵によって、間違いやいたずら着信を防ぐことも可能だ。暗号鍵は、共通鍵 1 つに加えグループ毎に個別の暗号鍵を 5 つまで設定することが可能。「社内通信用とは別の暗号鍵を利用することにより、社外と社内の拠点との誤接続を防ぐことができる。」(パナソニック システムネットワークス)

つながるねっとサービスは、来年 1 月頃から有償サービスとなる。それまでは、無償試行サービスとして提供する予

定という。

パナソニック システムネットワークスによると、KX-VC600とKX-VC300の販売開始は、7月中旬から。販売価格は、オープン価格。月産台数については、KX-VC600が400台、一方KX-VC300については、450台を予定している。

## パイオニア、効率的な会議運営を実現するディスカッションテーブルを発売

パイオニアソリューションズ株式会社(神奈川県川崎市)は、ディスカッションテーブル「WWS-DT101」を発表した。(5月11日)



ディスカッションテーブル「WWS-DT101」本体(上)、利用イメージ(下)(パイオニア資料)



ディスカッションテーブルは、効率的な会議運営を図りたいというニーズに対応する製品。情報端末と組み合わせたり、ディスカッションテーブルの提供するツール(コラボレーションデスクトップソフトウェア: SHEDA など)を用いること

で、マルチタッチパネルに対応した52型(1920x1080 pixelフルHD)画面に必要なコンテンツをすばやく表示したり、書き込める機能などを搭載している。各種レビューやプロジェクト総発会議などさまざまな場面において効率的で創造的な会

議運営を出来ると同社では説明する。

ディスカッションテーブルの特長は以下の通り。

(1)「メディアハブ」機能。WWS-DT101は、PC、スキャナー、デジタルカメラ、iPadなど、さまざまな情報端末を接続するだけで、アナログ、デジタルいずれのファイルも必要な情報をディスカッションテーブル上に簡単に表示できる。また、静止画やハイビジョン動画、PCの画面など複数のコンテンツを同時に表示することも可能だ。



### メディアハブ機能(パイオニア資料)

(2)「カードオペレーション」機能。情報端末から取り込んでディスカッションテーブルの画面上に表示されたコンテンツ操作については、タッチパネル操作により、自在に拡大、縮小、書き込みなどを行える。



### カードオペレーション機能(パイオニア資料)

(3)「表示マネージメント」機能。表示マネージメント機能を使うことで、コンテンツを一覧に表示して比較したり、レイアウト校正などを行うことができる。多彩な表示方法が提供されている。参加者の理解度の向上に役立つ。加えて、サブディスプレイ(別途手配)をディスカッションテーブル本体に最大2台まで接続することが可能。



### 表示マネージメント機能(パイオニア資料)

(4)遠隔会議連携機能。ディスカッションテーブルは、遠隔会議システム「サイバーカンファレンスシステムプライム」

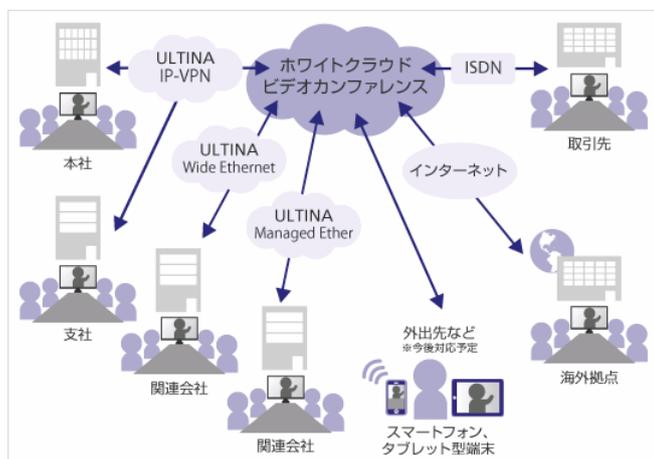
(別売)と接続して使用できる。これにより遠隔地の PC ヘコンテンツを送ることができる。

ディスカッションテーブルの外形寸法：1,600mm(W) x 902mm(H) x 1,000mm(D)。重さ：160kg。

価格は、オープン。発売(受注開始)は7月下旬から。

## ソフトバンクテレコム、HD対応ビデオ会議クラウドサービスを開始

ソフトバンクテレコム株式会社(東京都港区)は、ハイビジョンでのビデオ会議システムをクラウド型で提供する「ホワイトクラウド ビデオカンファレンス」を7月1日より開始した。(7月1日)



### ホワイトクラウド ビデオカンファレンス (ソフトバンク資料)

このサービスは、多拠点でのハイビジョンビデオ会議に必要な接続機能をクラウドサービスで提供するもの。このサービスを利用することで、ユーザは、ビデオ会議多地点接続サーバの購入や、高解像度映像配信に伴うネットワーク帯域の増強などの対応が不要。そのため、ビデオ会議の導入コストやシステムの運用・保守にかかる負担の削減が可能になるとともに、将来の拠点増加やハイビジョン化に伴うMCUのリソース確保にも柔軟に対応できる。

このホワイトクラウド ビデオカンファレンスでは、閉域網からの接続以外にインターネット回線やISDN回線からもアクセスできるため、アクセス回線が異なる拠点間でのビデオ会議が可能になり、自社内だけにとどまらず、社外の取引先などと

のビデオ会議にも対応できるという。

なお、アクセス回線やビデオ会議端末の機種、デバイスについても限定することなくユーザが用意したものをそのまま利用できる。

一方、ビデオ会議開催については、予約 Web システムから事前に会議の予約ができ、複雑な操作をすることなく自動的にビデオ会議に参加できる。加えて、専任のコンシェルジュが24時間365日体制で日本語と英語によるサポートを行う。

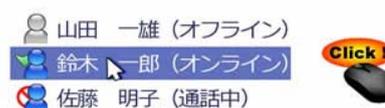
費用について。初期費用においては、基本料金が105,000円、MCUリソース割当料金が、5,250円(1端末申請あたり)。一方、月額費用については、基本料金が、31,500円～(接続回線による)。また、利用料金が、15,750円(MCUリソース割当ごと)、予約WEBシステム用ユーザアカウントが262円/ID。

今後のサービス展開については、スマートフォンやタブレット型端末からの接続も予定しているという。

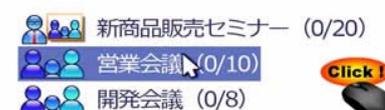
## 沖電気工業、操作性とユーザインターフェイスを強化した Visual Nexus ver5.0 を発表

沖電気工業株式会社(東京都港区)は、ビデオ会議システム「Visual Nexus ver5.0(ビジュアルネクサス)」の販売を開始した。(6月16日)

今回発表された新しいバージョンでは、操作性とユーザインターフェイスを強化した。ビデオ会議の主要操作を直感的に行えるように資料共有などの複雑な操作がシングルオペレーション(1回の操作)で行えるようになった。



個人を呼び出す場合は名前をクリック(沖電気工業 資料)



会議室に参加する場合は会議名をクリック(沖電気工業 資料)

会議の開催には、会議名や通話したい拠点名を選択してクリックするだけの操作で開催できる。また、資料を共有する場合は、対象の資料のアイコンを画面上にドラッグ&ドロップするだけで、全ての拠点への共有が開始される。さらには、プレゼンス機能から参加者を追加招集する操作もシングルオペレーションで行える。



ファイルをドラッグ&ドロップすると資料が自動的に共有される（沖電気工業 資料）

プレスリリース発表時の出荷予定時期については、ソフトウェア製品は7月7日。またアプライアンス製品は、8月15日をそれぞれ予定している。

### ルーシッド電話会議サービス、中近東・アフリカグループにバーレーンを追加

ルーシッド株式会社（東京都渋谷区）は、同社の無料電話会議サービス「BizSpeak」にバーレーンをサービス提供地域としてオプション提供開始した。（6月20日）

これによって、バーレーンが、中近東・アフリカグループに追加されることになり、バーレーン、南アフリカ、アメリカ、日本との間の国際電話会議が、1,575円で30日間何度でも利用できるようになる。

国際アクセスサービス料金は、1会議IDプランで、1,575円/ID/30日間/3カ国。3カ国は、イスラエル、南アフリカ、バーレーン。また、5会議IDプランでは、5,250円/ID/30日間/3カ国。

### ソフトブレン、同社の営業支援システムとシスコのWeb会議連携サービスを開始

ソフトブレン株式会社（東京都中央区）は、同社の営業支援システム（SFA）「eセールスマネージャーRemix Cloud」と、シスコシステムズ合同会社（東京都港区）のWeb会議システ

ム「Cisco WebEx」とを連携させた「eセールスマネージャーRemix Cloud with WebEx」の提供を開始したと発表。（6月30日）

この連携によって、eセールスマネージャーRemix Cloudのユーザは、営業会議や打合せに参加するために発生する移動時間やコストの無駄を省き、本来力を入れるべき営業活動である顧客訪問や提案などに時間を振り向けることが可能になる。



eセールスマネージャーRemix CloudからWebExの使用方法（ソフトブレン 資料）

連携した場合のWebExの使用方法。eセールスマネージャーRemix Cloudにスケジュール登録するとWebExに自動登録される。と同時に、参加予定者のeセールスマネージャーRemix Cloudスケジュールにも登録され、メールでWeb会議の案内が届く。そして会議当日に、そのスケジュール、もしくは、メールのURLから参加する仕組みとなっている。Web会議には、PC以外にも、スマートフォンやタブレット端末からも参加が可能。

サービス利用料金。WebEx連携モジュール：98,000円（税別、以下同）。eセールスマネージャーRemix Cloud：1ユーザあたり6,000円/月～。オンプレミス版は、60,000円/1ライセンス。

一方、WebExの料金（参考）：66,000円/ID/年間。最大25名のWeb会議参加者をサポートする年間契約ライセンス（会議回数制限なし）。会議を主催するホスト毎にライセンスが必要で、購入は2ホストからとなっている。

## システム・テクノロジー・アイ、低価格超小型ペーパーレスサーバを販売開始

株式会社システム・テクノロジー・アイ(東京都中央区)は、ペーパーレス会議向けのソリューションを発表。(6月21日)

今回発表されたソリューションは、サーバ1台でペーパーレス会議を実現する「iStudy E-Server Mini」の他、ペーパーレス会議に適した資料を簡単に作成することができる「iStudy Viewer Studio Standard Edition」、そして、Standard Edition の上位バージョンとして、各種アプリケーションで作成された資料をひとつの資料に統合する機能を有した「iStudy Viewer Studio Professional Edition」。

iStudy E-Server Mini は、紙資料を電子化し、会議資料の準備から会議開催後の議事録作成までをトータルにサポートする機能、加えて、会議を円滑にすすめるコミュニケーションツールなどを提供するアプライアンスサーバ。

iStudy E-Server Mini は、172.5 mm (W) x 153.5 mm (D) x 20 mm(H)の超小型。ネットワークに接続し、電源を入れるだけで難しい設定は一切不要という。

同時接続ユーザ数は、20名に対応し、登録ユーザ数は、100名まで対応。サーバ側が提供する具体的な機能は、ユーザ・会議室・スケジュールの管理、バックアップ機能、会議メモ等保管、資料配付・保管。

クライアント側の機能としては、「iStudy Viewer」閲覧ソフトとして使用。PDF 閲覧機能、会議メモ等書き込みツール、簡易議事録作成ツール(PC版のみ)。なお、PC版は、同社ホームページから、また iPad 版は、AppStore から無料でダウンロードできる。

会議資料の作成・登録には、iStudy Viewer Studio Standard Edition を使用(1ライセンスをバンドル)。マイクロソフト社の「Powerpoint」、「Word」、「Excel」から iStudy E-Server Mini に会議資料を簡単に直接登録ができる。また「しおり自動生成・編集機能」の他、複合機のスキヤナー機能を利用し複合機から iStudy E-Server Mini へ直接登録も可能だ。Professional Edition には、Standard Edition の機能に加えて、複数資料統合機能が提供されている。

価格について。iStudy E-Server Mini は、同時利用数 20、登録数 100 で、価格は、30 万円(税別以下同)。iStudy Viewer Studio Standard Edition を 1 ライセンス付き。2 インシデントまで無料サポート。追加インシデントは、10 ライセンス 30,000 円。販売開始は、6月30日。

Standard Edition は、1ライセンス 20,000 円。10 ライセンス 10 万円。販売開始は、6月30日。Professional Edition は、1ライセンス 150,000 円。翌年度以降保守 30,000 円。

システム・テクノロジー・アイでは、本年度の iStudy E-Server Mini 販売目標は、100 台を見込んでいます。

システム・テクノロジー・アイは、2009年6月より日本オラクル社の認定研修を多数ペーパーレスで実施してきた。この実績をもとに今回 iStudy E-Server Mini の開発を行ったという。

設立は、1997年6月。従業員 38 名。2002年12月13日に東証マザーズ(証券コード:2345)上場。E ラーニング学習ソフトウェア「iStudy シリーズ」や人材育成向けの「iStudy Enterprise Server」の開発販売、ならびに Oracle や IBM の認定研修など教育事業を中心に展開している。

## ビジネス動向-国内

### 日本 IBM , LotusLive 専用データセンターを日本国内に設置

日本 IBM 株式会社(東京都中央区)は、クラウド型コラボレーションサービス「LotusLive(ロータスライブ)」専用データセンターを日本国内に新設することを発表した。(6月21日)

LotusLive は、IBM がパブリッククラウドで提供する企業向けコラボレーションサービス。電子メール、コラボレーション(情報共有と協同作業)、Web 画面共有(Web 会議、Web セミナー)の3サービスを提供している。

国内にデータセンターを設置することで、国内の顧客を中心にアプリケーションの応答時間の短縮が見込まれるとともに、法規制やセキュリティの観点から国外に出せないデータを持つユーザなどに対応する。

新データセンターは、数百万ユーザまで対応できる処

理能力をもち、非常時のバックアップセンターを日本国の遠隔地に備えているという。

サービス開始は、9月からを予定しているが、震災後の電力制限を見極めた上で具体的な開始日を決定するとしている。

サービス開始にあたっては、まず応答時間の短縮をもとめられているコラボレーション機能と Web 画面共有機能から開始する。利用料金については、全世界で共通となっているため、新センターによる追加料金は発生しない。

なお、6月21日より12月9日までの期間限定で、「IBM LotusLive 複数年契約割引キャンペーン」を実施。LotusLive の2年分の料金で、3年分の利用権を取得する。

## 製品・サービス動向-海外

### ラドビジョン社、テレプレゼンスシステムを発表

ラドビジョン社は、「SCOPIA XT テレプレゼンス・プラットフォーム」を発表。北米で6月に開催された Infocomm 2011 展示会にて展示デモを実施。(6月15日)

SCOPIA XT テレプレゼンス・プラットフォームは、マルチストリームビデオ、フル HD1080 ビデオ、48kHz フルバンド音声、1080p 30fps によるデータ共有などの技術を採用しており、システムのコントロールは、アップル社の iPad マルチタッチによって操作が行えるようになっている。

加えて、「SCOPIA Elite MCU」と一緒に使用することで、たとえば、シスコ/タンバーク、ロジテック/ライフサイズ、ポリコムなどのテレプレゼンスシステムとの相互接続も可能という。

SCOPIA XT テレプレゼンス・プラットフォームは、RADVISION パートナーを通して、要望や予算の観点から個々のユーザのニーズに合った最適なテレプレゼンスシステムを構築し、顧客に提供できる点が特長という。

ラドビジョン社の発表によると、販売開始(全世界対象)は、6月中となっている。

### 2,350 万ドルの出資を受けたベンチャー Blue Jeans Network 社、ビデオ会議多地点接続クラウドサービスを開始

Blue Jeans Network 社(米国カリフォルニア州)は、クラウド型のビデオ会議多地点接続サービスを開始したと発表。(6月29日)

同社のクラウド型ビデオ会議サービスは、シスコシステムズ/タンバーク、ポリコム、ロジテック/ライフサイズなどの既存のビデオ会議システムの接続はもとより、パソコンやタブレット、スマートフォンにインストールした Skype や Google Talk、あるいは、一般電話も含めた混在の多地点会議が行える点が特長となっている。

同社では、フィールドトライアルを 2011 年の始めより開始。4月中旬から公開。それ以来、利用契約者数(subscriber)は増え、500社強、約4,000名の利用契約者が現在利用しているという。また、会議数については、約6,000会議を開催、延べ時間では、50万時間になっているという。会議参加者数ベースで見ると、100カ国1,000都市から15,000名にのぼる。

Blue Jeans Network 社は、Accel Partners 社、New Enterprise Associates 社、Norwest Venture Partners 社などから総額 2350 万 US ドルの出資を受け事業を展開している。

## ビジネス動向-海外

### ドイツテレコム社、クラウドサービス欧州展開で Blue Jeans Network と戦略的提携

ドイツテレコム社は、米ベンチャー企業の Blue Jeans Network 社と戦略的なパートナーシップを締結したと発表。(6月30日)

今回の提携によって、Blue Jeans Network 社が6月29日北米で開始したクラウド型ビデオ会議多地点接続サービスを、今年の暮れまでに、両社が共同で欧州において開始する。

ドイツテレコム社にとっては、同社が既に提供しているビデオ会議サービスを補完する形で提供する。一方、Blue

Jeans Network 社にとって今回の世界的企業との提携は、同社の事業実現可能性(validation)を示すものとコメントを出している。またクラウドサービス正式開始にあたっては、これまでドイツテレコム社より多大な協力を得ているという。

## 導入・利用動向-国内

### 日刊スポーツ新聞西日本、日立製作所 Woolive 採用、大阪・東京間の編集会議や意思決定の迅速化に

時々刻々と新たなニュースを紙面に反映させなければならぬ新聞報道の現場では、全国に展開されている拠点間でのリアルタイムな情報共有や意思決定の迅速化が重要な課題という。

東京・大阪・西部・北海道・名古屋の5本社を拠点に、日本全国をカバーする取材体制を敷いている「日刊スポーツ」。2009年4月に、大阪・西部・名古屋の3本社が合併して誕生した株式会社日刊スポーツ新聞西日本では、営業部門の意思統一や情報共有、大阪と東京に分かれて紙面づくりを行っている編集部門の紙面検討など、拠点間で効率的に連携して行うとともに、出張時の移動時間やコスト低減も兼ねてテレビ会議システムの検討を始めた。

導入検討においては、当初業界シェア上位の海外ベンダー1社と国内ベンダー1社のシステムで最終検討を進めていたが、役員会決定を行う1週間前になり、株式会社エヌ・ティ・ティドコモと株式会社日立ソリューションズが協力して提案した「Woolive」が新たな候補として再検討の対象となった。

最終的には、Wooliveを採用したが、1)H.264/SVCによる映像のきれいさや音の遅延がないこと、(2)PCや携帯電話からもテレビ会議に参加できること、(3)資料やアプリケーション連携が行えること、(4)定期的なバージョンアップでシステムの陳腐化を避けることができること、(5)サポート体制が充実していること、などが評価のポイントとなったという。

日刊スポーツ新聞西日本は、大阪・西部・名古屋・東京の各拠点にWooliveの専用機「セットトップ100B」と大型ディスプレイを設置。またVPN回線がない北海道には、PC用のソフトウェア「デスクトップ」とVPNモバイルカード(NTTドコモ回

線)で接続環境を整備した。

加えて、社内のグループウェアからWoolive会議室の使用状況の参照や会議室の予約もできるような仕組みも揃えた。

用途としては、大阪・西部・名古屋間の広告営業会議や販売営業会議、総務会議、大阪・東京間のメディア会議など、会議や打合せの用途で頻繁にWooliveを活用しているという。

また2011年4月以降は、大阪と東京のお互いの編集局をつないだ編集会議をWooliveで行っており、大阪と東京とで、紙面の一部の共有をしたり、小さな活字や写真を含めたレイアウトイメージを相互に確認しながら編集作業をしたり、あるいは、他紙と比較した反省会などでも活用している。



Wooliveを使ったテレビ会議の様子(日立製作所資料)

さらに、大阪本社では会議室のほか編集局のフロア中央にも大型ディスプレイ2台を並べたセットトップが設置されており、4月以降24時間連続してお互いの編集局を常時つなげることも行っているという。

このようにWooliveによって、編集局同士が距離的に離れていても、密接な意思疎通や情報共有などが行え、会議のみならず編集用途でも有用なツールとなっており、時間やコスト削減の効果と合わせて、同社では、テレビ会議が業務運営に欠かせない情報基盤のひとつになっている。

今後は、新聞編集システムや新聞制作システムなどのアプリケーション共有の他、モバイルカードによるPC端末か

らの会議参加、携帯電話による現場からの状況報告などでの活用を検討していくという。

またこれから全国の拠点でのテレビ会議活用が進めば、発想や情報の交換が促進され、新しいアイデアやビジネスモデルが生まれてくる可能性があるという日刊スポーツ新聞西日本では期待する。

日刊スポーツ新聞: <http://www.nikkansports.com/>

### 宅配水のアクアクララ、ブイキューブのV-CUBEミーティングを採用

アクアクララ株式会社(東京都港区)は、株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)のASP型Web会議システム「V-CUBEミーティング」を採用した。(6月30日)

アクアクララでは、V-CUBEミーティングを導入することで、年間300万円かかっていた出張費が80万円に削減され、社内のコミュニケーションの活性化にも大きな効果があったという。

アクアクララは、東京に本社、そして名古屋、大阪、福岡に支店があるが、メールと電話だけでは社員間のコミュニケーションが希薄となり、互いに顔を知らないという社員もいて、意思の疎通が図りにくいこともあった。また一方で、打合せや会議目的の出張コストが高額になっていた。そこで、遠隔でも顔を見ながらコミュニケーションを図れるように「V-CUBEミーティング」を導入した。

アクアクララは、高純度デザインウォーターの製造から販売、宅配までを一貫して行う事業をフランチャイズ展開し、宅配水(ウォーターサーバー)市場でシェアナンバー1という。

事例の詳細はブイキューブウェブサイトにて紹介されている。

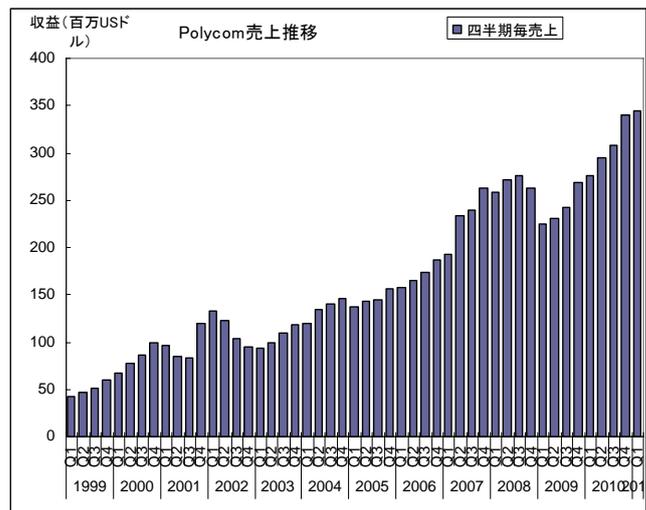
アクアクララ株式会社 <http://www.aquaclara.co.jp/>

## 決算発表-海外

2011年第1四半期(2011年1月-3月期)

\*NASDAQ等上場企業のみ。

### 米ポリコム社



(CNAレポート・ジャパンまとめ)

米ポリコム社は、2011年度第1四半期(2011年3月31日締め)の決算発表を行った。

第1四半期の連結売上高は、前年同期の2億7600万ドルに対して、過去最高の3億4400万ドルを記録。また営業キャッシュフローは、記録的な4600万ドルで、現金と投資の合計は、5億3900万ドルとなった。負債はゼロ。

地域別構成は、以下の通り。南北アメリカは、全体の売上高の51%(1億7600万ドル)、ヨーロッパ・中東・アフリカは、25%(8600万ドル)、アジア太平洋は、24%(8200万ドル)。

全ての主要地域で、同社のUCソリューションに対する広範な顧客需要により今回の記録的な売上が達成され、とりわけ、中国やインドなどの新興市場において非常に好調な業績が続いているとしている。

(次のページへ続く)

## セミナー・展示会情報

## &lt; 国内 &gt;

## 会議の効率化を実現！『ConforMeeting 無料体験セミナー』

## 定期開催

日程:8月3日(水)、10日(水)、17日(水)、24日(水)、31日(水)

※全ての日程で13:30~14:30、15:30~16:30の2回開催

会場:NEC 情報システムズ 本社(東京都港区)

主催:日本電気株式会社、株式会社 NEC 情報システムズ

詳細・申込:

<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformeeeting/seminar.html>

## チームワークとコンプライアンス確保のテレワークを実現する遠隔 Web 会議サービス SaasBoard3.1

日時:8月5日(金)13:30~15:30

会場:オンラインセミナー

主催:ニューロネット株式会社

詳細・申込:[http://www.neuronet.co.jp/eventSeminar.html#seminar\\_b](http://www.neuronet.co.jp/eventSeminar.html#seminar_b)

## 「テレビ会議システム導入支援ミニセミナー」

日時:① 8月5日(金)15:15~16:00

② 8月12日(金)15:15~16:00

③ 8月26日(金)15:15~16:00

④ 9月2日(金)15:15~16:00

※いずれの日程も15:00受付開始。

※導入検討ユーザ企業対象。

会場:下記企業に確認要。

主催:コクヨ S&T 株式会社

問い合わせ・申込:[news@meetima.net](mailto:news@meetima.net)

\*申込時:会社名、お名前(代表者)、ご参加予定人数(代表者含む)、部署名、役職、電話番号、メールアドレス、希望参加日を明記。

## 【無料体験セミナー】ペーパーレス研修・会議ソリューションのご紹介

日時:8月11日(木)13:30 ~ 15:30(受付13:00~)

会場:システム・テクノロジー・アイ

Ginza Learning Center(東京都中央区)

主催:株式会社システム・テクノロジー・アイ

詳細・申込:

<http://www.systech-i.co.jp/www/cms/topics/news110627.html>

## &lt; 海外 &gt;

## CENCE 中国企业网络通信大会暨展

日時:9月21日-22日

会場:中国 上海市 上海展覽中心

主催:全球 IP 通信連盟

詳細・申込:<http://cence.dl1net.com/>

\*企業通信、UC、クラウド関連。ビデオ会議もあり。

## 7th Annual Real-Time Communications Conference and Expo

日時:10月4日-6日 8:00-17:00

会場:米国イリノイ州 Illinois Institute of Technology

主催:Illinois Institute of Technology

詳細・申込:

<http://www.cvent.com/events/7th-annual-real-time-communications-conference-and-expo/event-summary-ffc3acffa5af4bddae7a33f788e37f56.aspx>

WR CSP Summit - North America 2011  
Driving Growth of Collaboration Services in an Emerging Unified Communications Environment

日時:10月11日

会場:米国マサチューセッツ州ボストン

主催:Wainhouse Research,LLC

詳細・申込:<http://www.wainhouse.com/event-calendar.php?sec=93>

## VCI-Group Second Annual Conference

日時:10月10日-12日

会場:米国ルイジアナ州ニューオーリンズ Sheraton New Orleans Hotel

主催:VCI-Group

詳細・申込:<http://www.vci-group.org/Events/Conference.aspx>

## Twitter、Facebook

ツイッターとフェイスブックを行っています。よろしければご覧ください。

Twitter 日本語版:<https://twitter.com/cnarjapan>

Facebook:<http://bit.ly/j06h47>

また6月7日にフェイスブックに、「テレビ会議・Web会議・電話会議 & ユニファイドコミュニケーション研究会」

を開設しました。<http://on.fb.me/jugTNp>

## 編集後記

今号もお読みいただきましてありがとうございました。

今月は、リコーの UC 新製品発表とクラウドサービスや、ブイキューブとPGIの提携発表などありましたので、次号以降にてレポートします。

最近ビデオ会議のクラウドサービスの発表を国内外でよく聞くようになりました。市場にどのような影響を与えるのか注目したいと思います。また、ペーパーレスソリューションの動向や、Skype まで接続できる多地点ビデオ会議の米 Blue Jeans Network、あるいは、無料 Web 会議の米 BigMarker などにも注目しています。

次号(8月15日号)もよろしくお願ひ致します。

橋本 啓介